

謹賀新年

～平成27年～



加東市議会議長
安田 朗



加東市長
安田 正義

酒米の王者は山田錦と言われるように、天然繊維の王様はウールと言われています。

羊は有史以来、人類の歴史とともにある動物であり、羊毛は人々の暮らしを豊かにし、大きな恩恵を与え続けてきています。しかし、日本での羊毛の歴史は比較的新しく、普及は明治維新以降でした。日本の毛織物産業は、先進地である西洋で苦学し、持ち帰った技術を改良・発展させた先人たちの努力の結晶です。

今年、加東市では、未来あるふるさとづくり、次世代へつなぐまちづくりのため、小中一貫教育へ向けた取り組みと、公共施設の適正配置を進めてまいります。子どもたちとまちが、さらに輝く未来を迎えるための大切な施策です。国を富ませ、豊かな暮らしを後世へ託すために英知を結集した先人たちと同様、強い決意を持って、これらの施策の実現を目指します。市民のみなさまのご支援とご協力を、心からお願ひ申し上げます。

さて、新年で交わす『おめでとございます』のあいさつ。賞賛するという意味の『愛づ（めづ）』が語源ですが、落語など芸能の世界では『芽出たい』とも表現します。『おめでとございます』は『芽を出したい』と思います。つまり『木々が芽を出し成長するように、わたしも成長します』という、自分自身への決意表明でもあるそうです。

新年、明けましておめでとございます。本年がみなさまにとって、大きな成長と発展を遂げられる素晴らしい年となることをお祈り申し上げます。

新年、あけましておめでとございます。みなさま方におかれましては、穏やかな新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年を顧みますと、自然災害の脅威をまざまざと見せつけられた1年であったと感じております。広島の高雨災害、御嶽山の噴火、自然の力の前では人間はなんと儂いものかと思わされたのではないのでしょうか。そんな中一筋の光明を見たのが長野県北部地震での白馬村の対応でした。震度6弱、全壊家屋40数棟という大きな地震にもかかわらず死者を一人も出さなかった。報道によると地区、自治会の結びつきが強く、近所の住人がどの部屋で寝ているかも把握していたのでいち早く救出できたと紹介していました。

まさに共助の大切さを身をもって教えられた、そんな思いでありました。

今、加東市では、新庁舎での業務もようやく軌道に乗り、市民のみなさんへのワンストップサービスが提供できる状態になり『想定外はありえない』を理念に、一番の重要課題である安全、安心の街づくりに取り組んでいます。

わたしたち議員は昨年秋の選挙により、定数が18人から16人へと減員となっています。2人少なくなった分、それだけ一人ひとりの業務も増え、その責任も大きくなっています。

わたしたち議員も行政の両輪の一つを担っていることの自覚を強く持ち、何が民意であるかを一番の基本としてその職責を果たし、「輝く街・夢ある街」加東の推進に取り組んでまいりますので、これからも一層のご指導、ご鞭撻をよろしくお願ひ申し上げます。

本年がみなさまに取りまして、笑顔多き日々、こころ穏やかな日々が続きますように心からお祈り申し上げます。